

ティータイム

正月から厄除など祈願が続く。昼になると食事をしにいったん下がるが、ここ数年昼時に限って電話が入り、人が来られて食事すらまともにとれないことが多い。「あろう」と急に訪ねて来られてもこちらは昼からの仕事に追われているので、頭を掻くしかない。

電話による販売をテレマというそうだがこれにも悩まされる。まるで昼時間を狙ったかのように電話が入る。その事を関係者らしい人物に問うと「効率的ですから」という返事が返ってきた。それ自体は悪いことではないだろう。むしろ意欲的といっている。だが相手の気持ちはお構いなしで、まったく平気で悪いなどと思ってもない、となると話は違ってくる。私は以前に比較してそういう大人たちが増えているような気がしてならない。

相手の気持ちを理解するには幼いときに心の働きを家庭の中で訓練されていなくては無理だと思う。物は低い方に流れてくるから親の方が低くなっている。子供が話しをしに寄ってくる。親はただ静かな気持ちで子供の側にいるだけでいい。すると心がつながり、ひいては他人の気持ちがわかるようになってくる。えらく詳しいようだが、これは河合隼雄氏の本に書いてあった。

私の母は、「ちようどお昼ご飯じゃないかしら」「いまお忙しいのでは」と相手を気遣ったものだが、経済も大事だが、ちよつとお茶しませんか。

崇敬会のご案内

○毎月一日 家内安全祈願
○年間初穂料三千円(二口)